

極貧の子供達への支援

『DRINKING FRIENDS' FUND』（飲み友達基金）

当会のカンボジア職員のリティさんが2016年から始めたこの活動は貧困が原因で学校に通うことが困難な子供を主に経済的に支援する活動です。当初は主にリティさんの飲み友達(DRINKING FRIENDS)からの寄付で成り立っていましたが、資金が充分ではない状況でした。

当会では2020年からこの活動の本格的サポートを開始しました。これまでは2人の男の子が支援の対象でしたが、2人の女の子を追加し、現在は4人の子供達を支援しています。

支援したお金は、生活費の補填、昼食代、参考書代、補習レッスン代、高校生の男の子の英語教室代などに使われます。勉強を続ける意欲のある子どもを選んで支援しており、当会が支援している識字学校の先生が勉強の相談にのってきめ細かい指導も行っています。

対象の子供の数は限られてしまいますが、子供達に寄り添った形で支援ができることは楽しみでもあります。今後は、ニュースレターを通じてみなさまには定期的にご報告してまいります。

◇DFFで支援する4人の子供達の紹介（2021年10月現在）

Chhay Piseth君

Piseth君は19歳です。Tuol Ampil高校の2年生になりました。



ニュースレターでも数回紹介しましたように、リティさんがこの活動を始めきっかけになった少年です。父親はおらず、母親は行方不明、今は仏塔で生活しています。

リティさんと出会う前は、彼はギャングと付き合い、麻薬に手をだしたりしていた不良少年でした。彼は勉強に関しては良くできる優秀な少年で、学校を続けたい希望が強かったので、リティさんが飲み友達を巻き込んでDFFを始め、経済的な支援をしています。識字学校のソクホーン先生も彼の生活を支えています。

DFFでは彼が高校を卒業するまで支援を続けたいと考えています。大学へは彼の力で行くことを願っています。

Chhoen Thik君

Thik君は17歳です。Piseth君と同じ学校の8年生(中学2年生)です。

彼には母親がいません。父親は彼を残してたびたび行方不明になります。彼は識字学校の生徒でしたので、ソクホーン先生が生活の面倒をみていて、昨年中学に進学しました。



2019年から彼の支援を始めましたがPiseth君と2人を支援するだけの費用は集まらず、不足分はリティさんとソクホーン先生の持ち出しで対応しているのが実状でした。

◇2020年から支援をはじめた2人の少女

Kob Chandyちゃん

Kobちゃんは12歳です。彼女はソクホーン先生が教えているPrek Chrey小学校の4年生です。10歳の弟がいます。



父親はすでに亡くなっており、母親は工場に働いていますが、病弱で生活に十分なお金を稼ぐことができません。彼女は今祖母の家で暮らしており、祖母が手作りのケーキを売ることを手伝いながら学校に通っています。彼女は時間があるときは孤児院で勉強しています。

彼女は中学を卒業することを希望しています。

Pov Piseyちゃん

Povちゃんは9歳です。彼女はKobちゃんと同じ小学校の3年生です。彼女の父親は亡くなっており、母親は建設労働者として働いていますが、精神が不安定です。また、建設の仕事でいろいろな場所に移り住まねばなりません。



建設の仕事が無い時は近くの孤児院で働いており、Povちゃんは今その孤児院に住んでいます。

彼女も中学を卒業したいと思っています。

今後も皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。